

JBAインテグリティ委員会の活動方針と 暴力暴言根絶に向けた対応について

2019/2/17 U12カテゴリー第6回執行会議

アンダーカテゴリー部会 副部長 山本 明



インテグリティ委員会の決定によるU12/U15での対応について



1. インテグリティ委員会の経緯
 - ・2018年12月25日 インテグリティ委員会設立(委員長:宇田川貴生)をJBA理事会で承認
 - ・2019年1月28日 第1回インテグリティ委員会開催
2. 第1回インテグリティ委員会における決定内容
 - ・JBA含め全ての団体における共通スローガン(主題)として【**クリーンバスケット、クリーンザゲーム**】を決定した。
 - ・JBAとしては副題として喫緊の課題である【**暴力暴言根絶**】とした。
 - ・委員会としてスローガンを実現していくために以下を決定した。
 - 1) **バナーを作成**して大会においてメッセージを発信し、啓発活動を実施
(2019年3月ジュニアオールスター、全国ミニ、4月より全国にて)
 - 2) **コーチが全ての選手に対する暴力的行為及び暴言**は競技規則に則り**テクニカルファウル(C)**として取り扱うことを確認した。
 - ※ 今までテクニカルファウルの運用としてコーチが選手に対する暴言等をテクニカルファウルの対象として取り扱っていなかった。
 - ※ **暴力行為に対しては、ディスクォリファイングファウルとして失格退場**である。
 - 3) 競技規則によりテクニカルファウル(C) 2 個で失格退場となるが、**規律案件(次の試合出場停止等)とはせず当該試合のみの対応**とする。
 - ※ 競技規則によるコーチの失格退場
 - a) ディスクォリファイングファウル 1 個
 - b) テクニカルファウル(C) 2 個
 - c) テクニカルファウル(B) 3 個
 - d) テクニカルファウル(C) 1 個+テクニカルファウル(B) 2 個
 - 4) テクニカルファウルの対象となる暴力的行為及び暴言に関する事例集(ガイドライン)は、指導者養成・ユース育成部会で原案作成し、インテグリティ委員会で承認するものとする。

1. テクニカルファウルの扱い
 - 1) 試合中、コーチが全ての選手に対する暴力的行為及び暴言に対しては、
コーチのテクニカルファウル(C)とする。
 - 2) コーチのテクニカルファウル(C) 2個で失格退場とする。
※ これまでテクニカルファウルによる失格退場はなかった。
2. マンツーマン推進のテクニカルファウル
 - 1) マンツーマン推進における「赤旗対応によるテクニカルファウル」については、「マンツーマンペナルティ(M)」とする。
※ 競技規則に準じたテクニカルファウルと区別するため
(マンツーマンペナルティは国内独自ルールである)
 1. マンツーマンペナルティの場合、スコアシートコーチ欄に(M)と記述する
 2. マンツーマンペナルティ(M)は、U12においては3個で失格退場とする。
 3. 失格退場に対しては規律案件としない。
 4. マンツーマンペナルティ(M)とテクニカルファウル(C・B)との合算による失格退場は設定しない。

コーチ失格退場のケースにおけるU12での対応について(案)

■コーチ失格退場のケースにおけるU12カテゴリーでの対応

コーチライセンス資格を持つコーチが失格退場となった場合の試合継続の可否については競技規則に則り、没収試合の扱いとしない。

※ 競技規則ではコーチが失格退場の場合、キャプテンが代行することになっている。

1. ベンチに、ヘッドコーチの他にアシスタントコーチをおく。
2. アシスタントコーチがない場合は、チーム代表者や保護者代表をベンチ登録すること。

※ 大会規程(大会要項・実施要項)に記載しておくことが望ましい。

※ 複数の指導者がJBA公認コーチライセンスを保有していることが望ましい。